

所 属	現代社会学部 現代社会学科(ビジネス文化専攻)		
主な担当科目	日本経済論、日本の産業と企業		
	氏 名	荒川 憲一	
	フリガナ	アラカワ ケンイチ	
	職 位	教 授	
	学 位 等	一橋大学経済学博士	
研究内容・社会業績等			
<p>1972年一橋大学社会学部卒業と同時に陸上自衛隊入隊、以後、40年防衛省、自衛隊に勤務した。前半の20年は静岡、名寄、広島などの部隊勤務、後半の20年は防衛研究所や防衛大学校で、戦史の教育研究に従事してきた。その間、社会科学修士、経済学博士の学位を取得。研究内容としては「先の大戦は回避できなかったのか」「戦争の勝敗を分けたものは何だったのか」「国家や企業の盛衰を分けるものは何か」など。戦争や競争を経済の視点から分析している。</p> <p>研究分野:比較経済史、比較戦争経済思想史、比較戦争史、比較産業史、経営戦略、戦争とロジステクス、グローバル補給戦、技術移転、最近では「戦争の大義」「思想戦」に関心あり。</p>			
論文・書籍・資格等			
<p>書籍:単著『戦時経済体制の構想と展開—日本陸海軍の経済史的的分析—』・2011年2月・岩波書店 (本書は国際安全保障学会より佐伯喜一賞:最優秀出版奨励賞を受賞した) 共著(海軍史研究会)『日本海軍史の研究』2014年12月・吉川弘文館 共著(荒川・サラベイン)The Shipping of Southeast Asian Resources Back to Japan: National Logistics and War Strategy. B.A.Elleman and S.C.M.Paine, ed. Commerce Raiding, Naval War College press, Newport, Rhode Island. pp.209-223 (2013)共著(荒川・サラベイン)Naval Blockades and Seapower・2006・Routledge,London and NewYork 共著(阿部、瀧澤、荒川)『戦後強制抑留史第三巻』・2005年3月・平和祈念事業特別基金 共著(荒川、Brian Bond)・British and Japanese Military Leadership in Far Eastern, War (1941-1945)2004年 Frank Cass, London and NewYork.(ビルマ戦線における日本の戦争指導:インパール作戦を中心に) 論文:「大震災時の燃料(石油)問題:流通・物流業の視点から」2016年5・6流通ネットワークキング ・対日通商破壊戦の実相:暗号解読を中心に・2015年12月・錦正社・軍事史学203 ・通商破壊戦の受容と展開:第一次大戦の教訓・2015年3月・錦正社・軍事史学 ・戦時下の造船業:日米比較・2014年・東京国際大学論叢、経済学部編 ・石油はいかにして届けられたか:大震災当初の石油製品SCM分析・2012年5月・日本物流学会誌 ・世界恐慌による経済ブロック化の功罪・2012年1月・歴史読本通巻871 ・対中経済封鎖とその効果・2008年。軍事史学 ・両大戦間期軍部の戦時経済思想—陸軍を中心に—2008年3月・防衛大学校紀要96 ・日本の戦争経済の特質・2003年9月・政治経済史学445 ・太平洋戦争と物資動員計画・2003年6月・軍事史学153 ・比較戦争経済史・2002年3月・防衛研究所『戦史研究年報』5号 ・日本の戦時工業労働力—航空機工業を中心に—・2001年11月・防衛学研究26 ・石原構想の限界と可能性・2001年10月・軍事史学 ・軍戦備の戦い:潜水艦の場合・2001年3月・軍事史学143/144 ・開戦経緯の経済的側面・1999年・防衛研究所『戦史研究年報』2号 ・戦間期の戦争経済研究について・1999年11月・軍事史学139 ・南方資源還送問題・1999年10月・陸戦研究552号 ・わが国独特の戦法の誕生・1999年9月・陸戦研究552号 ・ノモンハン事件における日ソ両軍の戦闘・1997年3月 ・物資動員計画から見た日中戦争・1997年12月・軍事史学 ・総力戦はいかに準備されたか・1996年10月・防衛学研究12号 ・対日全面禁輸決定の構造・1996年3月・防衛大学校紀要72 ・軍部の戦争経済観:予測と実際・1995年9月・軍事史学 ・The Cold War and the Foundation of Japanese Self-Defense Force 1997/Army History,No.41、Washington,D.C. ・「南部仏印進駐」決定の構造・1994年3月・防衛学研究11号</p>			
学生へのメッセージ			
<p>学ぶ喜びをつかんでください。自分の目標を定め、1日1日その目標に向かってすすんでいるか。毎日確認しながら学んでください。学ぶ喜びは、待っていてもつかめません。先生たちの授業に向き合い、自分で、もう一度問題を整理し調べ考える。先生たちは何をいいたかったのか。わからなかったら質問をぶつけてください。自分はいま目標への道程のどの位置にあるのか。問題を整理し、議論する。何がわかったか。ときには戦略的後退も選びながら、少しずつ前進し知らず知らずの内に皆さんの目標への地図は充実したものになっていき目標との距離がわかってきます。</p>			